

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所

第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD



よいことのために手をとりあおう

第1713回例会 令和7年12月16日(火)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。本日は合同例会ありがとうございます。今年度は月に1回だけロータリーの事を話そうという事で、米山梅吉さんとロータリーについてお話しています。年表を作ってその時その時の話をしています。米山さんはガバナーを3期務めています。3期目に選ばれた時には悩みながら受けたという事です。



＜第2回地区年次大会＞

第2回の地区年次大会は、昭和5年5月10、11日、神戸で開かれた。米山は、ここで3度ガバナーに選挙された。このときは、すんなりうんとは言わなかった。選挙委員会の議長が全会一致で、現ガバナーの米山を豫選した旨を報告すると、米山は、当惑の色を示し、「ロータリーの主張から見ても再三の重任は甚だ考へ物であるのみならず、自分は豫て此の任期を終り次第當然退任することを堅く決心して居った場合、只今報告された豫選は全く自分の希望を裏切り、甚だしく自分を苦境に陥れるものであるが、投票すらも用ひず全会一致での御豫選とまで承っては、即座に御断りすることもゆたか禮にあらずと思ふし」と、困惑の体で決答保留の態度であった。結局、これを受諾するに至るのは、その夜の晩餐会の席であった。

米山は、この大会のガバナー告示のところで、以下の趣旨のことをいっている。

ロータリーはインターナショナルな力強い運動である、其の起源がアメリカであるからとて1から10までアメリカ風に遣る必要はなく、日本のロータリーは日本独自の行き方を加味すること亦大に可である。併し、ロータリーの動かす可からざる根底と基礎とを会員個々が先づ十二分に了解会得せねばならない。したがって、コンスチチューション〔定款〕やバイロース〔細則〕の熟読精究は必要である。当区に於けるロータリー運動の進展に関しては、中国、九州、台湾等には特に速やかにクラブの設立を見ることを望む。既成クラブの発展については、会員数の増加は固より望まじき所なるも、夫れよりも新入会員の選択には十二分の考慮を要すべく、其の人格さへ満足なりとすれば、職業分類の如きは出来る限りの斟酌融通を加ふるも可なり。

【幹事報告】

山田 利明

今日の幹事報告は特にはありません。

副ガバナー卓話



RI第2570地区

副ガバナー 相原 茂吉様

皆さん、こんにちは。2020年度にガバナーをやらせていただき、お伺いしましたが、久々にこちらに來させていただきました。今日は秩父ロータリークラブと皆野・長瀨ロータリークラブという事で緊張しております。

先ほどお話がありましたが、坂口ガバナーがお亡くなりになり、私は副ガバナーという立場でしたので、選ばれたのではなく、自動的になりました。今日は坂口さんの話と私がガバナーの時に作ったビデオを見ていただくという事で時間を拝借します。

坂口さんについては、原島さんから電話があり、秩父ロータリークラブの公式訪問を延期して欲しいと坂口さんから連絡があったのですが、何かありましたかと。すぐに連絡をしたところ、背中が痛くて再検査をするという事でした。息子さんの看病に行っていたら、背中が痛くなった。その病院では手に負えないという事で、順天堂の方に行ってくれという事で、行ったところ、そうしたところ、肺がんのステージ4であったという事でした。最初細かい事は伏せて、療養中という事にしました。坂口さんは年内の公式行事その他を中止にして、来年にしますと地区中に知らせたところ、だいぶ激震が走り、私にもいろいろな話がきました。ガバナー補佐の方々と打ち合わせをして、事実を話し、年明けの公式訪問等について決めました。その中でも地区大会が間近でしたので、どうするという事で、主幹クラブの川越ロータリークラブでばたばたでしたが、無事に先日地区大会は終わりました。坂口さんはさぞかし登壇したかったと思いますが、非常に痛みが強くモルヒネも使っていて、来る事が出来ませんでした。その地区大会が終わると同時に安心したように11月28日に逝去されました。通夜、お葬式がありました。

皆さんにはご配慮をいただき、ありがとうございます。11月30日にご自宅を訪問し、顔を見てきたのですが、穏やかで笑っているようにも見えました。

坂口さんの思い出ですが、私の年度に地区幹事をお願いしました。とにかく八面六臂の活躍で、よくやってくれました。私の時にはコロナでしたので、地区大会をどうしようかと考えていました。その時に坂口さんが万全の態勢で完全予防してやりましょと背中を押してくれまして、地区大会を開催しました。

私は鈴木秀憲さんからガバナーを引き継ぎ、水村さんにバトンタッチしました。その次のガバナーですが、大変ひどいガバナーでした。その年度は会員数も減りましたので、何とか立て直さなくてはいけないという事で、次の年には深谷の高丹さんにガバナーになりました。高丹さんは社会的にも立派な方で、アメリカのパナソニックの社長をやられた方でしたが、ロータリーをよく分かっていないという事で、SOSがきました。坂口さんに相談して、高丹年度を盛り上げて、地区を立て直すのにどうしたらいいかという事で、地区のエースと呼ばれる人を集めて、ミーティングをやろうという事になり、登場したのが秩父の原島さんでした。そして五十幡さんと私と坂口さんとで高丹年度の組織作りから協力しました。しかし、前年度の尾を引きずっておりました。高丹さんの年度においても前ガバナーの所属クラブは会員数2名になってしまっていました。存在しており、公式訪問等いろいろな問題がありました。原島さんがガバナー補佐でしたが、丁寧にピシッと対応してくれて、報告をしてくれました。こういう状態ですので、前ガバナーについてパストガバナーの資格はないというR Iに提訴しました。最終的には会員が本人一人になったために自動的にクラブは解散し、前ガバナーはロータリアンではなくなったという事です。

そして高丹さんのあと五十幡さんがガバナーに、次に坂口さんがガバナーになりました。坂口さんの後には原島さんがガバナーになるという事です。

坂口さんはロータリーに熱心でしたが、昔は「やんちゃ」だったそうです。不良だったそうですが、群れる不良ではなく、一人で突っ張っている不良だったそうです。仕事は日本料理屋をやっていて、非常に繁盛していて、1年の3分の1はハワイに行きっぱなしだったようです。非常に遊び人だったようです。

なぜそれがロータリーに一生懸命になったか。急にロータリーに目覚めたらしいです。本人に聞く機会がなかったのが、奥さんい聞きました。そうしたところ毎晩、ロータリーの本を読んでいました。

栗山さんというロータリーの生き字引のような人がいますが、川越の栗山さんと呼ばれるのがうれしかったようで、一生懸命ロータリーの勉強をしていたようです。奥さんの想像ですが、ロータリーは人材のるつぼで、自分が接してきた人と違う社会的にも素晴らしい人がたくさんいるので、そういった人と触れ合うのが楽しか

ったのではないのでしょうかというのが、奥さんのお話でした。本当に全然変わりました。

体と心と財布の健康の話がありましたが、坂口さんはそういう人たちと巡り合う事がことのほか、うれしかったそうです。そしてガバナーエレクトになり、アメリカの国際協議会で世界中のガバナーエレクトと勉強して、帰って来て、7月からガバナーとして活躍されていましたが、ガンになり、亡くなりました。地区大会には本当に出なかったと思います。

私はガバナーはやらせていただくものだという事を、終わって痛感しました。とにかく埼玉県素晴らしい人たちに神輿を作っていたいただき、乗せていただくわけですから、人脈も広がり、勉強にもなりました。ガバナー年度の花が地区大会でしたので、出られずに残念だったと思います。本当に惜しい人を亡くしました。

坂口さんのテーマとメッセージですが、R I会長は自分のテーマを決めます。私の時には「ロータリーは機会の扉を開く」というのがテーマでした。坂口さんの時には、R I会長が年度は始まる前に急遽変わったりして、テーマがなかったと。代わりにR I戦略委員会でメッセージを発表しました。そのメッセージが「よいことのために手を取り合おう」です。ある程度、長期間に渡ってメッセージを抱きながら行動しましょうというのがロータリーの方針だったようです。坂口さんは国際協議会から帰って来て、ご自身の方針を打ち上げました。特に大事にしていたのは、「クラブを強くしましょう」という事です。クラブがあってこそ、強くなってこそこのロータリーだという事で、どうすればクラブが強くなるだろうとおっしゃってました。その条件はという事で

1. 素晴らしい人材を多く育てるクラブにしましょう。
2. 会員の年齢バランスの良いクラブにしましょう。
3. 明るく活気に満ちたクラブにしましょう。地域社会から尊敬されるクラブになりましょう。
4. 会員にロータリーの勉強の場を作れるクラブにしましょう。
5. 伝統と歴史を引き継ぎ新しいことに挑戦するクラブにしましょう

特に会員にロータリーの勉強の場を作れるクラブですが、ロータリーは親睦、奉仕とか大事なことがあります。やはり組織である以上、ルールが必要だと。そのルールを学ぶためには勉強の場を作る。それがロータリーとして大事な点といつも言っておりました。

僭越ですが、私がガバナーの時に作ったDVDを見ていただきたいと思います。私の父の話で恐縮ですが、私の父はロータリー、ロータリー、ロータリーでした。なんでロータリーだったかを分かりやすくDVDに作りましたので、ご覧になっていただきたいと思います。

出席率50.0%